

古美術桃青の紹介記事

古美術桃青はいろいろな雑誌や書籍に紹介されています。それらの中で、主婦の友社が発行する月刊誌『ゆうゆう』の記事を紹介します。古美術桃青がどんな店かを知っていただくために、どうぞご一読ください。



50才から「私」が主役

my40's 臨時増刊 YouYou 2月号 Vol.3 600円

三宅島の子どもたちにお年玉を贈りました

古美術店主夫妻が案内する 私たちの好きな**鎌倉**

大特集 50代のための **ダイエット**

すこやか

モノの整理って結局は欲望の整理ね

暮らし快適! **整理術**

吉沢久子さん 近藤典子さんほか

ムダを削ぎ老後の安心をつかむ **生命保険を見直す**

夫婦関係はリセット **できるのか?**

心揺れる50代の夫と妻

50代から危険! **歯周病**

女性ホルモンで肌が若返る

頭痛、肩こり、更年期障害 肌ケアにも

ふくらはぎもみ

いよいよ21世紀暮らしを、お金を、自分の体を、そして夫との関係を見直してみませんか

ゆうゆうインタビュー 浜美枝さん 「夫婦って一生手探りね」

市原悦子さん 背筋を伸ばして花と暮らす 楠目ちずさん 87才

懐かしい子ども時代を描く たかいひろこさん

ゆびあみで人生が変わった 篠原くにこさん

56才の「デビュー」 小椋佳さん

連載 笑ってトクする老い支度 岡田信子さん

「根のもの」たつぷりの旬の食卓

50代から危険! **歯周病**

女性ホルモンで肌が若返る

頭痛、肩こり、更年期障害 肌ケアにも

ふくらはぎもみ

吉武輝子さん 林郁さんほか

鎌倉発 古美術店夫婦の 豊かな日々

私的鎌倉案内つき

長い歴史を刻む寺社や、四季折々の変化に富んだ自然。古くから文人や芸術家を魅了してきた鎌倉は、いまも変わらぬ、私たちの憧れの町。いつかここで過ごせたら……そんな、たれしもが抱く夢を、人生の折り返し点で実現させた夫婦がいます。若いころから愛し続けてきた古美術店夫婦の日常は、何をしたいか、何をしたいか、何をしたいか、何をしたいか……

奥様が応援、50才のときに夢を断念できなかったのです。そして6年の年月が経ちました。いま、古美術店「古美術 桃青」の宮永民雄・眞喜江夫妻の毎日は、「無類の鎌倉」の美を満喫しています。



報国寺にて

仏教美術は「桃青」の得意ジャンルのひとつ。これは藤原時代の誕生仏で、ほんの手の平にのるほどの大きさがたまらなくいい。



器の衣装ともいえる仕覆を仕立てるのは奥様の眞喜江さん。器の格や時代を考えながら、古裂を選び、一針一針ていねいに縫います。



空間を生かし、趣味よくディスプレイされた古美術品は、週1回のペースで仕入れをしているため、常に新しい出会いがあります。

「古美術 桃青」
神奈川県鎌倉市由比ガ浜1-10-1
☎0467-23-6199 11時～18時 木休

撮影/阿部 浩 取材・文/田中敦子
イラスト/おかだ ともこ

50才で始めた古美術店

定年を迎えるころになって「さてこれからは好きなことを」と考える人は多いはず。それを50才で実行し、鎌倉に古美術店を開いた富永さん夫妻。定年より10年も早く夢を実現できた大きな理由は、「ご主人の夢に対する奥様の深い理解があったからこそ。それでは、お店をのぞいてみましょう。」



こうしてお二人揃って接客することも。夫婦でお店にすることが、お客様にもなごやかな印象を与えてプラスになっているとか。

古美術店の第一印象を人にとえれば、おしゃべり、お澄まし、威厳たつぶり、などなど実に個性豊か。由比ヶ浜大通りにある間口二間ほどの「古美術 桃青」からは、ちょっと人見知り、といった印象を受けるのですが、そもそもご主人の富永民雄さんが古美術コレクターとしてこの道に入り、いまでも初心を持って続ける人だからかもしれません。「お店にあるのはどれも気に入って仕入れたもの。だから、お客さんに気に入ってもらえたら手放してもいいけれど、売れなくても、別にかまわない。いまま、気持ちの6割くらいはコレクターなんです」

雄さんは出版社で多忙な毎日を送っていましたが、あるとき先輩から「編集の仕事は体力勝負。40才を定年と思っていたほうがいい」というアドバイスを受けます。その言葉がきっかけで、「趣味の古美術を生涯の仕事として、いつか独立して古美術店を開きたい」と、具体的な人生設計を描くようになり、以後おこづかいのほとんどを古美術に投資。出入りしていた骨董屋さんでは取材同様の熱心さで話を聞き出し、箱書きなどに惑わされず本物を見極める目を磨いてゆきます。そんな古美術に積極的に取り組み民雄さんに、奥様の真喜江さんも協力、ときにはご自分で古美術品を購入することもありました。彼女は現在、民雄さんとともにお店を切り盛りし、器の仕覆制作も担当していますが、彼女の

理解があったからこそ、いまの「桃青」があると民雄さんは言います。というのも、会社を辞める決断をしたかたがた民雄さんの背中を、ぼんと押したのが真喜江さんだったからです。「好きなことだったなら、さっさとやりなさいよ」と。「そのひと言で、彼女が責任の一端を支えてくれるという心強さを感じ、決心することができたんです」と民雄さんが言えは、「なんとかなる」と思っていたし、私も編集の仕事をしていながら、いざとなれば仕事



さりげなく名品をディスプレイし、季節の花を絶やさない店先に、道行く人も、ふと足を止めてのぞきます。



仕覆製作のために、真喜江さんが集めた古裂いろいろ。金襴、緞子、錦、更紗、丹波布の上手のものが揃い、裂好きなら、のどから手がでてしまいます。



店番の合間などに仕覆を仕立てる真喜江さん。開店時に習い始め、いまでは教えてほしいという人が後を絶たないほどの腕前になりました。

をすればいいって。楽道家でしょう？」と真喜江さんには「こり。まわりからは定年まで待ったらと言われもしましたが、「お店を始めるとは定年じゃ遅いんです。体力と気力が残っている最後のチャンスが50才ぐらいではないでしょうか」そして、民雄さんからこんな話も聞きました。「古美術品って、持つことによつて、暮らしにうるおいを与えてくれるだけではなく、将来、経済的な楽しみもありますしね。もちろん、ちゃんとしたものを選ぶ目があつてこそですけど」



ブームの古裂細工ですが、真喜江さんには「あくまでお店で扱う器のためのもの。作品展をすることなど考えていません」



中国では吉祥の意味がある石榴をかたどった古染付の香合は、小粒な栗ほどの大きさが愛らしい。茶人でなくても、ふと欲しくなる茶道具があるのも「桃青」の魅力。



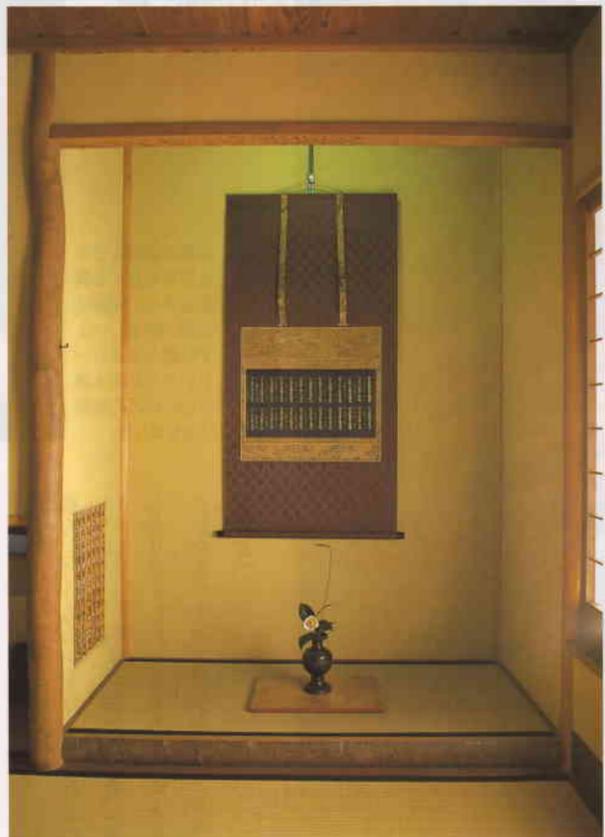
鎌倉時代の男女の神像は、いつの時代からか離ればなれになり、偶然このお店で再会をしたという、ロマンチックな逸話つきです。

20代、30代のお客様が多いのも「桃青」の特徴。みなさん勉強熱心で、知識欲も旺盛。そんな常連の一人・金谷潔さん（川崎市在住）を相手に、民雄さんの説明にも熱が入ります。



ときには自慢の古美術品で気軽な茶会を

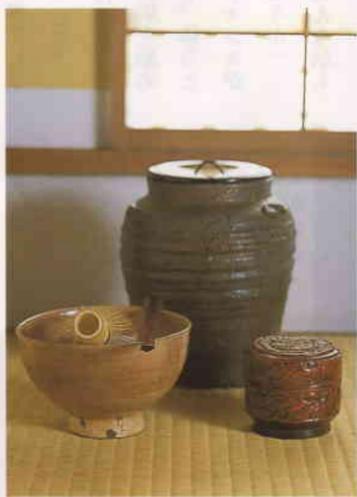
「古美術 桃青」の開店以来、富永さん夫妻の交友はぐんと広がりました。お互いに気に入った古美術品を介してお付き合いですから、ときには民雄さん自慢の道具を揃えて鎌倉のお寺でお茶会というしゃれた遊びも企画します。秋深まる古都で、ゆったりお茶と道具を楽しむ一日。これも第二の人生を選んだ特権でしょう。



藍で染めた紙に、1行おきに金と銀でお経を書いた平安時代の「金銀交書経断簡」を床に。花入は鎌倉時代の金銅華瓶。お花は、お客様佐藤さんが担当。

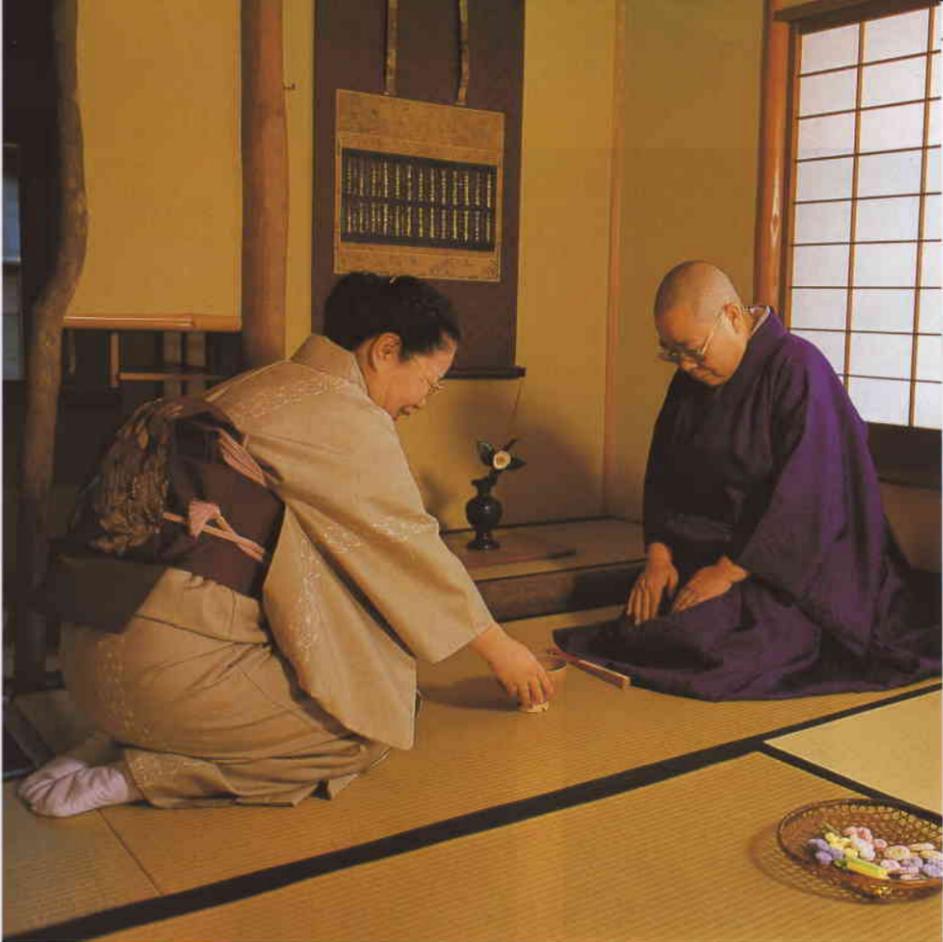


室町時代の華籠に季節の干菓子盛って。洗い道具の中に華やかさを添えています。



室町時代の備前種の水指、薄器として使っている桃山時代の鎌倉彫薬器、李朝の呉器茶碗などは、どれも民雄さんの自慢の品々。

「開店当時からベテランコレクターのかたが気に入ってくれて、毎週のように何かしら買ってくれました。お客さんのあてもなく始めたので、とても運がよかったですね。それから2〜3年たつと、30代、40代の若いお客様が増えました」
 今日のお茶会にお招きした豊福由佳さんも、そんなお客様の一人。若くしてお茶を教える彼女にとつて、「桃青」の品々はびつたり好みにはまったようです。やがて、鎌倉に住むお母様の佐藤珠園さんも、由佳さんに誘われて「桃青」に通うようになりました。書や花、お茶をたしなむ佐藤さん、由佳さん親子は、いまや富永夫妻の親しい友人です。
 今回、茶室をお借りした英勝寺の住職、柳田法導さんとは、佐藤さんの紹介で親しくなられたそう。お店のお客様を集めてのお茶会などにご利用することもあるそうです。



英勝寺の住職もお招きしたお茶会では、奥様の眞喜江さんが半東(亭主の補佐役)をつとめました。お召しの着物はお母さまから譲られた染め紬です。

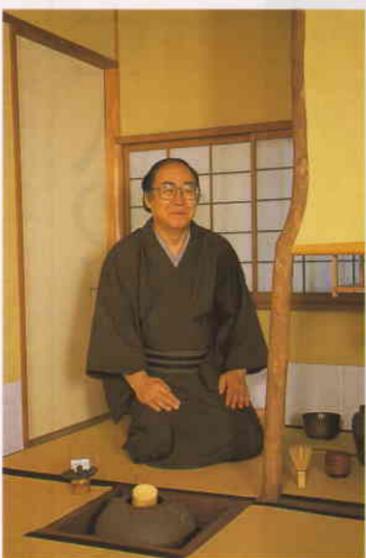


拝見中の豊福由佳さん。鎌倉育ちで、結婚後は東京で暮らしていますが、熱心に「桃青」に通う常連です。

古美術の楽しさを広げたいから、使えて触れるお茶会はよい機会です



英勝寺は太田道灌屋敷跡に徳川家康の側室、英勝院が家康死後に創建した寺で、現在は鎌倉唯一の尼寺。



着物姿が堂に入っている民雄さん。古美術好き同士のお茶会は、道具中心に話題が広がり、終始なごやかな雰囲気でした。

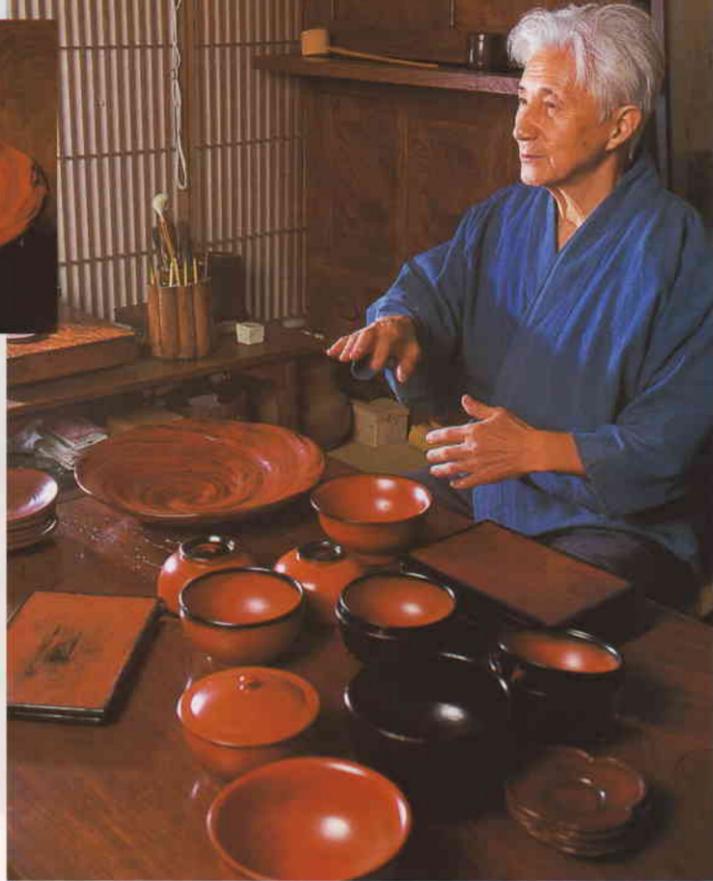


この庭は、茶室を借りた人だけが入れる場所。茶室を借りたい場合は☎0467-23-8485(英勝寺)へ連絡を。

「今日は僕が亭主をつとめますけど、お茶は無手勝流ですからね。その分、道具は僕の気に入ったものを厳選して楽しんでいただくと思えます」という民雄さん。身近で眺め、手にとつて、物の持つ気品や時代を味わえるような道具を揃えました。
 「僕が扱う古美術品は、茶道の宗匠や数寄者の箱書きなどにこだわっていません。先輩コレクターの指導を受けながら、徹底的にいいものを見つけた自負がありますから、品物には自信があります。また、品物の中には美術館クラスの名品もありますので、美術館でガラス越しに見ていたようなものが手にとれるなんて、と驚かれるお客様もいらっしゃるんですよ。それも決して買えない値段ではないんですから」
 この日の道具も、平安時代の掛け物や鎌倉時代の花入などの名品が揃っています。そして、その中に現代の漆芸作家・田中敏雄さんの茶杓を加えるなど、時代だけにとらわれず、いいものはいいと認める柔軟さもあります。この感覚もまた、「桃青」の魅力になっているようです。

二人の目が選んだ漆芸の名匠・田中敏雄さん

古美術好きという共通点から交友が深まった漆芸作家の田中敏雄さん 素材で力強い作風もまた、富永夫妻のお気に入りです



機械では出せない深い味わいこそ手作りのよさ、と仕事への厳しさを語る田中敏雄さん。尺八で身を立てることも考えていたという20代に鎌倉彫と出会い、以来漆芸一筋。民藝運動や古美術品への深い理解を通して、独特の作風を確立しています。

「桃青」の店内には、さまざまなジャンルの古美術品が並びます。それは、「できるだけ広い目で古美術品に接したほうが楽しいし、勉強にもなる」と考える敏雄さんの信念ゆえ。さらに言えば、古い物だけがよいとは限らないし、洋の東西も問わないということになります。

「お客様用の茶托やティスプレイに使っている根来の板皿は親しい漆芸作家の田中敏雄さんの作品なんです。彼もまた古美術が大好きで、それが作風にも表れています。たとえ鎌倉彫の作品を見ても、従来の鎌倉彫のイメージをくつがえすシンブルな意匠で、古い物とも調和する味わいがあるところが素晴らしい」そういえば、お茶会の茶約も田中敏雄さんのものでした。確かに、鎌倉のお店で見ると鎌倉彫のイメージとは全く異なり、無駄な装飾を排して、使えば使うほど味が出る力強い美しさに満ちています。

田中敏雄さんは西鎌倉にお住ま



お椀は姿の美しさが大切、と田中さん。手前右は、長年使い込まれて漆が透けてきたお椀。使う漆はすべて国産です。



なんと「洗濯機」の渦を見て思いついたという意匠。存在感たっぷり。直径33.5cm×深さ5.5cm



板皿は、上から、使い込んだ艶削り、未使用の艶削り、ヤリガンナ削り。根来の朱と黒のバランスに神経をつかった作品です。縦15.5cm×横23cm

普段着の鎌倉が味わえる

富永夫妻おすすめのおいしい店

鎌倉の観光ガイドは数多くあるけれど、この街を暮らしのベースにしている人ならではのおすすめは、飾らないおいしさが息づいています。

富永夫妻の住まいは東京、大田区。毎日約1時間かけて鎌倉に通っています。二人でお店をしていれば食事を鎌倉ですませることもたびたび。ですから気軽においしく、鎌倉ならではの美味を楽しむことが、暮らしの活力ともなっています。

「お昼はお店で済ませることが多いので、行きがけに『光泉』でいなり寿司を買ったり、『タカラヤ』で酵母パンを買ったり。どちらも大人気で、特に光泉のいなり寿司は、予約しなければ手に入らないほど。それから日に一種類の生菓子しか作らない『こまき』のお菓子を、お客様用に買っていくこともありますね」と、お昼ご飯担当の眞喜江さん。

親しいお客様と外で昼食をとるときは、『日文』や『ちくあん』。『日文』は、鎌倉の旬の素材にこだわった京料理ですが、家庭料理を洗練させたというだけあり、量も値段も納得いくもの。『ちくあん』は水できりりと冷やした、胡麻だれ蕎麦が絶品。うどん、ではないところが変わっているけれど、これが実に合うんです」とは民雄さん。

そして、仕事が終わった後の夕食は、『食工房わ』へ。旬の鎌倉の素材をおいしく食べてほしいという、こだわりのこのお店は、地元の人々の口コミで評判が広まっています。「おいしくて値段も手ごろ。ただし、必ず電話で空席があるかどうか確認します。満席のことも多いので」

●食工房わ 鎌倉市扇ガ谷1-8-1 ☎0467-22-0448 火～金11時半～13時、17時～22時 土・日・祝16時～22時 月休 予算は、お酒も飲んで、二人で5000円もあれば十分



●こまき 鎌倉市山ノ内501 ☎0467-22-3316 11時～17時（和菓子販売は10時より）秋の生菓子「秋の山」一つ300円



●光泉 鎌倉市山ノ内591 ☎0467-22-1719 10時～売り切れまで 火休 一人前620円



●ちくあん 鎌倉市由比ガ浜2-22-8 ☎0467-23-5911 11時半～20時半 無休 胡麻だれ蕎麦 850円



●日文 鎌倉市由比ガ浜2-9-62 ☎0467-22-8685 11時半～21時半 月休 昼1,900円～夜2,900円（写真）～



●タカラヤ 鎌倉市御成町5-34 ☎0467-22-1862 10時～19時 月火休 カンパー ニュ300円ほか



夫婦でめぐるとっておき鎌倉散歩コース

古美術店を開く前から富永夫妻にとって鎌倉は親しい土地でした。地理や歴史が好きなお二人は、この土地の建造物や自然は何度通っても飽きることがないとおっしゃいます。お店が休みの日も、ときには鎌倉でのんびり過ごすのが鎌倉通おすすめの散歩道では、ひと味違う古都の表情が発見できそうです。



縁切り寺の別名で知られる東慶寺。かつては尼寺だった名残りか、たおやかな風情が漂う庭園に心が癒えます。



DATA
●東慶寺 JR北鎌倉駅から徒歩3分 ☎0467-22-1663 拝観料100円 8時半～17時(11～2月は～16時) ㊟なし(宝蔵館は別途300円 10時～15時 月休)



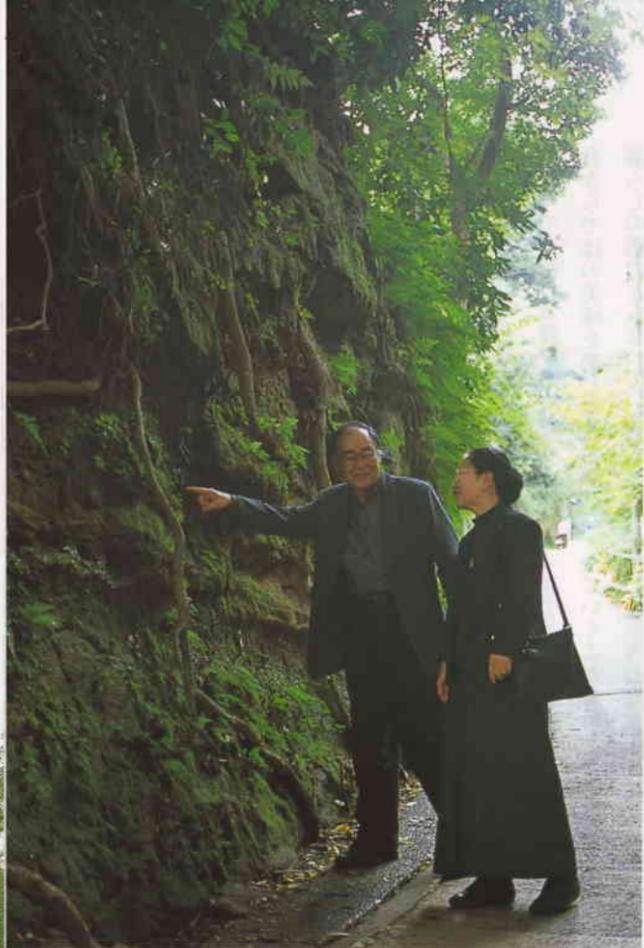
可憐な、ナadeshikoの花(東慶寺)。



建長寺からすぐの亀ガ谷坂を上ると、目を見張るような“亀ガ谷切り通し”の崖に出会えます。民雄さんが地層についての蘊蓄を披露。

鎌倉五山第一位の建長寺は、威風堂々とした雰囲気を持つ禅寺。

DATA
●建長寺 JR北鎌倉駅から徒歩15分 ☎0467-22-0981 拝観料300円 8時半～16時半 ㊟有料20台(1時間500円)



シオン(海蔵寺)。



リンドウ(海蔵寺)。

「海蔵寺は、いつ来ても静かで、四季折々の花が咲いているので、大好きな寺です」と眞喜江さん。

DATA
●海蔵寺 JR鎌倉駅より徒歩25分 ☎0467-22-3175 境内自由拝観(十六ノ井拝観100円) 9時半～16時 ㊟20台 4月のカイドウと9月の萩が有名な花の寺。



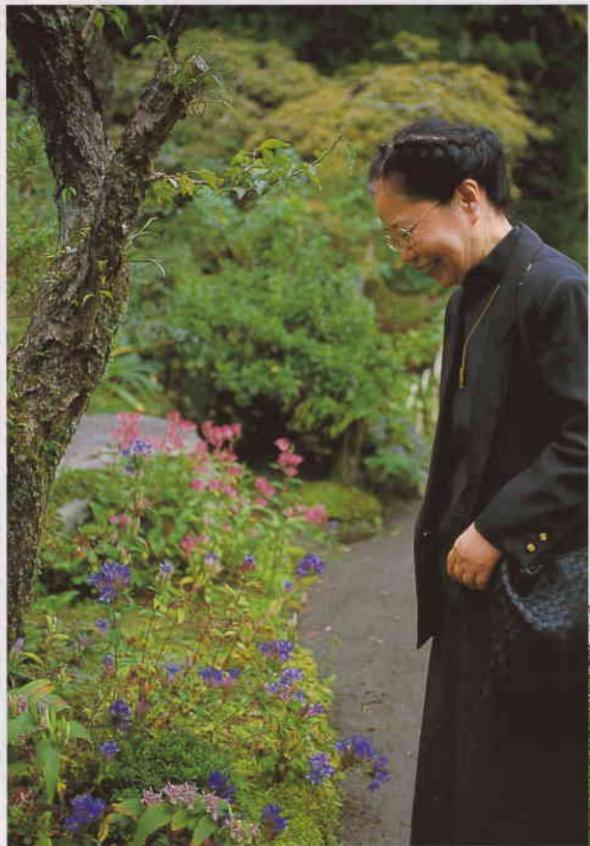
海蔵寺は、知る人ぞ知る萩の名所。満開のときには、石段の両脇から萩のアーチが垂れ下がり、それは見事。



ホトトギス(海蔵寺)。

それも鎌倉を歩く楽しみになっていきますよ」と民雄さん。鎌倉山にある棟方板画美術館や、由比ヶ浜大通りの鎌倉文学館、また小町通りから少し入ったところにある鎌倉市錦木清方記念美術館などは、静かな環境の中でゆったり過ごせる場所としておすすめです。

花を愛で、歴史を感じながらなら道の起伏も苦になりません



DATA
●銭洗弁財天 JR鎌倉駅西口から徒歩25分 ☎0467-25-1081 境内自由 ㊟なし



近代日本画を代表する錦木清方の旧居跡に建てられた美術館は、小町通りのオアシス。



扇ヶ谷から源氏山へと続く化粧坂は屈曲した険しい山道ですが、紅葉の名所として人気があります。



化粧坂を上り切ると、源氏山公園。お花見で有名ですが、地元の人々のごみの広場にもなっています。



源氏山公園から少し下った途中にある銭洗弁財天。この霊水でお金を洗い清めると、福銭になるという言い伝えがあります。

DATA
●鎌倉市錦木清方記念美術館 鎌倉市雪ノ下1-5-25 ☎0467-23-6405 9時～17時(入館16時まで) 月休(祝日開館、次の平日を休館) 一般200円(特別展は料金変更)

